

表1 臼杵湾赤潮プランクトン調査結果(R5.7.19)

単位:細胞数/cc

採集地点	調査時間	水深 (m)	水温 (°C)	塩分 (PSU)	溶存酸素 (mg/l)	シャトネラ	カレニア	ヘテロシグマ	コックロデニウム
						spp.	ミキモトイ	アカシオ	ポリクリコイデス
1. 大在	8:21	0	21.8	-	-	30	0	0	0
2. 神崎	8:35	0	23.0	-	-	6	11	0	0
3. 古宮	8:55	0	21.3	-	-	18	1	0	0
4. 一尺屋	9:08	0	21.7	-	-	0	0	0	0
5. 下の江	9:50	0	23.5	32.81	7.2	1	0	0	0
		2	22.1	32.95	7.4	0	0	0	0
		5	21.2	33.08	6.9	1	0	0	0
6. 下の江(奥)	9:59	0	24.4	32.65	7.3	1	0	0	0
		5	21.2	33.08	6.7	0	1	0	7
7. 日ノ浦	10:20	0	24.4	32.56	7.3	0	0	0	0
		5	21.4	33.06	7.2	2	2	0	0
8. 三つ子養殖場 大分みらい水産	10:14	0	22.8	32.88	6.7	1	0	0	0
		5	21.4	33.05	6.9	1	3	0	0
9. 三つ子養殖場 臼杵海産	10:09	0	23.1	32.74	6.8	1	1	0	0
		5	21.5	33.11	7.1	1	1	0	0
10. 黒島						欠測			
11. 日代	11:18	0	22.8	-	-	1	0	0	0

※0mの水温・塩分・DOはクロロテックの0.5mの測定データによる

参考:赤潮注意・警戒密度(単位:細胞数/cc)

赤潮プランクトン	注意密度	警戒密度
シャトネラspp.	10以上	100以上
ヘテロシグマ・アカシオ	5000以上	50000以上
カレニア・ミキモトイ	200以上	2000以上
コックロデニウム・ポリクリコイデス	30以上	300以上

* 警戒密度は漁業被害が想定される密度です。

* アワビ、ササエ等ではキムノデニウム・ミキモトイで100~200細胞/ccで斃死する可能性があります。

* マグロに関しては、赤潮注意・警戒密度に1/10を乗じた細胞密度とする。

連絡事項:

有害プランクトンのシャトネラspp.とカレニア・ミキモトイとコックロデニウム・ポリクリコイデスが確認されました。

今後の細胞密度の推移にご注意ください。

